

「植物工場で地域の課題を解決したい！知的障害（しょうがい）者と
一緒に育てた新鮮な野菜をお届け！」

株式会社 Ozaki

農林水産省 北海道農政事務所釧路地域拠点 ながしま みほ
長嶋 美穂



1. はじめに

寒さの厳しい道東地域にある釧路市の株式会社 Ozaki は、人工光・水耕栽培型植物工場によるリーフレタス等の生産・販売を目的とし、平成 30 年 1 月に設立された会社です。

同年 2 月には事業名「知的障害者の雇用と地産地消による冬の安価な農作物の供給を目的に人工光・水耕栽培型植物工場による葉菜類・ハーブ類生産・販売事業」（注）として、六次産業化・地産地消法に基づく総合化事業計画の認定を受け、食料産業・6 次産業化整備事業交付金を活用し、植物工場を整備しました。

2. 設立に至った経緯

代表の尾崎誠治氏が株式会社 Ozaki を立ち上げたきっかけは、一人の親族の存在でした。その方は、知的障害があり、養護学校卒業後、自立した安定的な収入を得られる就職先が地元にはなく悩んでいました。そこで、尾崎氏はこの状況を一家庭の課題ではなく、地域全体の課題であると考え自ら学び情報を集め、障害者が農業分野で活躍することを通じ、自信や生きがいを持って社会参画を実現していく取組である「農福連携」の考え方を知りました。尾崎家はもともと釧路で農業を営んでいたこともあり、障害者が自立するためだけではなく、自らの生きがいにつながるよう「農福連携」によるリーフレタス等の生産・販売を行う株式会社 Ozaki の設立に至りました。



写真 1：工場外観

3. 栽培面で苦労した点

植物工場では、わずかな環境の変化が成長や生産量に影響を与えるため、工場内の温度や肥料濃度の調整作業は非常に繊細なものとなります。

植物工場の施設は名古屋にあるメーカー製を採用したため、釧路と本州の気候の差により生産環境にも影響があります。燃料費高騰も踏まえ、夏場は電気料金が安い夜間に LED 照射を行っていますが、北海道の冬は、本州の冬より湿度が高く、また外気温と工場内の温度差が大きいと結露が発生しやすいため、冬は日中に LED 照射を行うなど、厳しい道東地域の冬でも栽培できるよう季節に合わせた工夫を凝らしています。

当初はリーフレタスのみを栽培する予定で整備しましたが、現在はバジル、クレソン、ホワイトセロリも生産しています。リーフレタスへの施肥はできるだけ低い濃度で、他は高い濃度で栽培するなど、作物によって適した肥料濃度は異なりますが、施設の設備上、品目ごとに肥料濃度を設定することはできないため、その調整にはとても苦労したとのこと。ミリリ

ットル単位での調整を重ね、どの品目も偏りなく成長できる最適な濃度を見つけ、5年目となった現在、どの品目も安定して生産することができるようになりました。



写真2：工場内部の様子



写真3：工場内部の様子

4. 従業員の雇用

現在、株式会社 Ozaki では尾崎氏を含めた役員3名と知的障害者の方3名を含むパート従業員6名が働いています。知的障害者の雇用で工夫している点としては、養護学校の先生の紹介があっても、すぐに採用、雇用するのではなく、数日間、工場での業務を体験していただき、ご本人の適性を確かめてから雇用を決めています。障害者雇用に際して、苦勞されることはほとんどないとのことでしたが、強いて上げれば、知的障害者の方の中には、お話が好きな方もおり、ついつい話に気を取られ、作業の手が止まってしまうことがあるとのこと。その

ような時は尾崎氏の妹である工場長が目の前の作業に集中できるよう繰り返し声かけをすることで、業務に取り組んでいるとのこと。休憩時には、従業員の皆さんでテーブルを囲み、お茶を飲みながら色々な会話を楽しみコミュニケーションをとることが業務を続けていただくことにとって非常に重要であり、このような積み重ねにより信頼関係を構築することで、従業員の方々が工場長の呼びかけにもしっかりと耳を傾け、業務と休憩にメリハリをつけて作業に取り組めるようになったそうです。働き始めの時は、養護学校の先生が心配されて工場まで様子を見に来ることもあったそうですが、今ではすっかり馴染んで、毎日楽しく働いています。

5. 消費者からの評判

植物工場内で栽培しているため、土壌栽培と比較して天候に左右されることはなく、年間を通じて品質も価格も安定して生産することができます。そのため、葉物野菜の価格が高くなる冬の時期に株式会社 Ozaki の野菜を店頭で見つけ、ファンになる消費者の方も多そうです。

水耕栽培は土壌栽培とは異なり、シャキシャキとした食感を持ちつつも、柔らかいため食べやすく、子どもからお年寄りまで幅広い年齢の方に美味しく食べていただけます。野菜が苦手なお子さんのいるご家族からも「Ozaki の野菜は柔らかくて美味しいから、子どもも喜んで食べています」といった嬉しい声も届いています。

植物工場内では農薬を使用しない水耕栽培を行っているため、そのような野菜を好む消費者の方々が、積極的に選んで購入されることも多いです。



写真4：株式会社 Ozaki の商品

が、「障碍」で総合化事業計画は認定していません。

6. 今後の展望

「まず一番には、今の状況を継続して、安定的に生産していきたい」と話す尾崎氏。昨今の資材費及び光熱費高騰の影響は、株式会社 Ozaki も例外ではありません。それでも、「地域のため、毎日楽しく働いている従業員の方のため、当社の野菜を楽しみにしてくださっている消費者のため、これからも釧路で引き続き頑張っていきたい」と強く語っていました。

株式会社 Ozaki の野菜は、道東地域だけでなく道央地域のスーパーでも販売されています。店頭で見つけた際には、是非購入し食べてみてください。色鮮やかでシャキッとした食感とやわらかさに驚くと思います。



写真5：代表の尾崎誠治氏

(注)「碍」の文字は常用漢字ではありません